

国内最小の赤とんぼ「ヒメアカネ」(千葉県最重要保護生物) 森の墓苑で生息を確認

当協会が運営する森の墓苑(千葉県長南町)で、8 月 23 日、千葉県レッドリストの最重要保護生物に指定されている「ヒメアカネ」の生息を確認しましたので、お知らせします。

なお、この度の発表に当たっては、千葉県立中央博物館の伴光哲研究員に同定・確認をいただきました。

森の墓苑では、墓地区画内やその周辺に多様な草が生えるよう管理し、様々な昆虫が生息できる環境づくりに取り組んでいます。2022 年にも、千葉県最重要保護生物に指定されている「カヤコオロギ」の生息を確認しました。このような、カヤコオロギやヒメアカネといった希少な生きものが確認できることは、私たちの目指す環境づくりが着実に進んでいることの証です。



今回確認されたヒメアカネ

近年、生物の多様性を守り回復させようという機運が、国内でも非常に高まっています。一方で、陸上の生態系を支える重要な生きものであるはずの昆虫は、生息地の減少や農薬の使用など様々な要因により、生息が脅かされ、種数・個体数ともに激減しています。

当協会は、自然を再生し、生きものが戻ってくる環境をつくることの大切さを、多くの方々に知っていただきたいと考えています。

◆ヒメアカネ *Sympetrum parvulum*

北海道から九州まで広く分布しますが、千葉県では記録がとても少ない、トンボ科アカネ属のトンボです。

成虫の体長は約 3cm で、やや細身の体型をしています。国内に生息する赤とんぼの中では、最も小さい種です。

主に、平地から低山地にかけての、周囲に木立のある湿地や、耕作放棄された水田などに生息します。羽化後も水域から遠く離れることは少なく、周辺の草地や林縁で昆虫などを捕食して過ごします。

◆森の墓苑 www.morinoboen.org

土砂採掘の跡地を 50 年かけて自然の森に戻す、自然再生型の墓地です。従来型の石のお墓を建てるのではなく、この地域における在来種の樹木を墓標としています。

トウキョウサンショウウオの保護活動をはじめ、「お墓でありながら多くの生きものがくらす場所」を目指して、契約者の皆様とともに自然環境の再生・保全に取り組んでいます。

2020 年には、体験活動を通じて環境保全への理解と関心を深める「体験の機会の場」に、県内で初めて認定されました。

